令和2年度　京都府立京都八幡高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）

「ユニバーサルデザイン（UD）」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りに貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。
(1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。
(2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。
(3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。

前年度の成果と課題

令和に元号が替わる祝賀ムードの四月から始まったが、年度末の新型コロナウイルス感染予防による長期休校など慌ただしく終わった一年であった。その中でも南北両キャンパスの教職員の協力により、大きな混乱もなく新年度準備が出来たのは幸いであった。本校の特色である八幡支援学校との交流及び共同学習についても、積み上げてきた実績に基づいて、両校のスクールパートナーシップを深めることができた。
年々厳しさを増す生徒募集状況の下、今後の更なる充実・発展のためには、積年の課題であり、生徒アンケートでも指摘される「学校全体に学習する雰囲気が欠けている」という状況の改善が課題である。「スマートスクール構想」に呼応してICT環境の整備を進めたが、全教員が積極的に授業改善に努め、生徒の基礎学力定着と、自ら課題を解決する力を養うことが望まれる。それが地元中学生から選ばれる魅力ある学校づくりにつながるものと確信する。

本年度学校経営の重点（短期経営目標）

南北両キャンパスの一体感を基盤として、あらゆる教育活動をとおして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。
(1) ICT機器活用を含む学習形態のUD化推進と、学習評価に関する研究の活性化
(2) 普通科と2つの専門学科それぞれの現状分析と対策の実行、改善に向けた検討
(3) 就修学保障及び進路保障に向けた指導改善の研究・研修の充実
(4) 保護者・地域連携による基本的生活習慣及び社会的自立心の育成
(5) 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による学校の活性化
(6) 八幡支援学校との協働を含めたインクルーシブ教育の推進・研究
(7) 安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価 中間	評価 年度末	成果と課題
	「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。			どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。				
組織運営	組織運営	教育力の向上	学校の教育力を一層向上させる。	教職員の研修機会を増やし、資質向上に努める。	研修受講数	3	センター研修の積極的な受講を促し、受講する機会を増やす。	受講数	前年度比増	3	3	年度の前半については、コロナ禍の影響で研修が実施されなかったが、後半については、主体的・積極的に参加した。授業見学についても、授業再開後に順調に実施できた。
							授業見学の充実	授業見学に参加する教員数	延べ100人以上	–	3	
	組織運営	広報活動	積極的な広報活動に努め、中学生や保護者、府民の本校に対する理解を深め、志願者の増加をめざす。	報道機関による報道回数	前年度比増	2	報道機関等へ積極的な広報活動を行う。	報道回数	前年度比減	2	2	行事等の縮小により、報道回数についても昨年度を下回った。
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	年度末アンケートでの「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」の項目に対する肯定率	90%	3	校内のUD化を推進する	企画実施回数	3回以上	2	3	校内のUD化については、4カ国語の校内案内表示等を掲示した。
							効果的なUD学習を実施する	担任の先生による肯定率	80%以上	3	3	UD学習においては、学年と連携しながら実施し、UD学習の肯定率は、89．6%であった。重点目標の「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」のアンケート結果は、88%ではほぼ目標を達成できた。
	組織・運営	生徒募集	本校の魅力を効果的に発信し、志願者を増やす。	入試選抜における志願者数	募集定員を超えている	3	学校ホームページの充実	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数	80回以上	3	4	課題は、ベテラン教員の大量退職に伴い、若い世代の教員への人権教育の継承を計画的に行っていく必要がある。
							校門周辺の掲示物を改善する	改善回数	3回以上	2	3	学校ホームページは、2月末の時点で175回更新できている。学校の様子は、中学生や地域の方に、しっかりと伝わっていると思う。
							学校説明会の開催	参加者のアンケート肯定率	85%	3	4	校門周辺は、ペンキが塗り直され、学校のコンセプトや基本理念等の新しい掲示物が設置され、明るく活き活きした雰囲気になった。 学科説明会の参加者の肯定率は、97.8%であった。 課題は、具体的な項目が達成できているが、志願者数が定員を満たしていないことである。定員を満たせる方策をさらに研究する必要がある。
教務部	組織・運営	生徒異動	学習システムのUD化を進める	転退学者数	昨年度比減	3	考査前、学期末に成績不振者に対する基礎補充を実施する	成績不振者数	昨年度比減	3	3	欠課過多生徒数については昨年度と比較して増加しているが、成績不振者数については減少している。また、転退学者数についても減少をしている。来年度も今まで以上に生徒にとって分かりやすい手立てとなるよう、基礎補充や追認指導などの学習システムを整備したい。
							追認対象生徒に対する補充を実施する	追認認定率	80%以上	2	2	
							欠課過多生徒の報告（連絡）の徹底を呼びかける	欠課過多生徒数	昨年度比減	3	2	
	組織・運営	学力向上	学習指導の充実を図る	生徒満足度調査「Q8：学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%	3	読書活動の推進	生徒一人あたりの貸し出し冊数	昨年度比増	2	2	今年度は今まで以上に読書活動の啓発を行ったが、貸出冊数の増加にはいたらなかった。プロジェクターが普通教室に整備されたことやIpadの導入もあり、ICT機器の使用頻度は年間を通して増加している。来年度も読書活動を推進し、授業におけるICT機器の効果的な活用を図ることで学校全体の学習する雰囲気を高めたい。
							ICT活用の推進	ICT使用率	10%増	3	3	
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせる環境をつくる。	生徒満足度調査「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	肯定率75%以上 強い肯定率35%以上	3	盗難がおこらない環境の整備及び啓発活動	生徒満足度調査(Q13)の肯定率	肯定率 85%以上強い肯定率 50%以上	3	3	概ね達成しているが、強い肯定には到達していない。生徒指導に係る様々な取組について、生徒自らが発信できる取組を実施し、学校に対する安心、信頼を高めたい。
							交通安全等に関するHR指導（交通安全指導、担任への資料提供等）	実施回数	12回	2	2	
							（北キャンパス）昼だしなみ強化期間の設定	実施の回数	1回	3	3	
							（南キャンパス）遅刻生徒に対する指導の強化	遅刻回数	昨年度よりUD%減	2	3	
	生徒指導	部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	生徒満足度調査「本校には打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率75%以上 強い肯定率35%以上	2	部活動加入を促進口	12月時点での部活動加入率	40%	2	2	部活動加入率増加に向けて6月に急遽、体験入部を実施した。入部率並びに継続率共に低下傾向にあり、各部の運営すら困難となってきている。南Cpで活動している部活動で、実習等に支障を来さない程度の活動を実施したところ、南キャンパスの加入率は高まった。
							生徒部通信等の発行によるアピール	発行回数	10回	2	2	
							部活動 部長会の開催	実施回数	3回	2	2	
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	学校満足度調査「就職・進学に関する情報の提供は十分だと思いますか」の肯定率	肯定率82%	2	進路情報の提供	生徒向け進路だより（生徒向け・教員向け）の発行回数	3回以上	3	2	肯定率は80.9%にとどまった。方策1については、教員向けの進路だよりを発行することはできなかった。調査書の様式変更や「学びの基礎診断」認定ツールなどについて積極的に発信していきたい。方策2については、個人への指導はある程度丁寧に対応することができたが、学年全体の進路希望や取組状況などについて情報共有する機会を持つことができなかった。
							進路対策会議の実施	対策会議の実施回数	2回以上	2	2	
							ホームページ記事の更新	記事の更新回数	30回以上	3	3	
保健部	保健管理	環境管理	環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート17「教室や廊下、下駄箱等はきれいに清掃されていますか。」の肯定率	65%	3	生徒会、安全美化委員会、保健委員会で、清掃活動への取組に関する呼びかけを行う。	呼びかけの回数	2回	2	3	感染症対策を取りながらの美化活動ということで制約もある1年であったが、結果的には評価指標が3の基準65%を越えた。南北間の数値の差は例年通りであるが、今年度は北単独でも高い数値となった。今後は、生徒数が減少する中で効率的に校内の美化を保つ方法の模索が必要である。
							「ほけんだより」で環境美化についての呼びかけを行う。	掲載回数	1回	1	3	
							エコキャップ運動に関する呼びかけあるいは教室掲示を行う。	掲示等の回数（コロナの影響により、今年度は推進活動を見送る）	–	1	–	
	保健管理	健康管理	心身の健康管理への意識を高める。	学校満足度アンケート質問16「本校は、生徒の心身の健康管理に取り組んでいると思いますか。」の肯定率	72%	3	「ほけんだより」や「スクールカウンセラーだより」で心身の健康管理について取り上げる。	掲載回数	3回	3	3	前年度からのほぼ3ヶ月にわたる休校から1年が始まり、生徒の心身の健康についてさまざまな懸念があったが、「おたより」やカウンセラーの活用、保健室での対応等により、健康管理に適切に取り組むことができた。評価指標も、商北それぞれでの基準72%に達した。
第1学年部	学習指導・生徒指導	規律の確立	授業を大切にする基本的生活習慣の確立を図る。	生徒満足度調査「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%	3	日々のSHRにおいて遅刻・欠席・授業規律などの徹底した指導を行う。	担任による確認・指導頻度	週3回	3	3	SHRにおける生活指導や電話を含めた生徒・保護者との面談については、連絡を密にし、またその内容を学年や他分掌と共有することができた。総探については時宜を得た活動を柔軟に行ったが、突発的事象も想定した計画の綿密さについては次年度以降の課題としたい。
							生徒の状況を把握するために担任と生徒及び保護者との面談を行う。	面談の実施回数	年間3回	3	3	
							主に総探を活用し、生徒が自分の課題に応じて学びあいをする時間を設ける。	学習会の実施回数	年間10回	2	2	
第2学年部	生徒指導 進路指導	学力の育成及び生活規律の確立	基礎学力の定着、基本的生活習慣の確立及び具体的な進路目標を持たせ、規範意識を持った集団の育成に努める。	満足度アンケート「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	肯定率75%以上	3	進路情報の提供と個別面談の実施	進路学習及び面談回数	学習3回面談5回	2	3	進路ガイダンス、学年懇談会、就職セミナーの実施により、進路指導が一歩踏み出せた。研修旅行の取組を通じて、南北キャンパスの連携や相互理解が深まった。
							安心して学校生活を送れるよう生徒の状況等を学年会で共有する。	①学年会での情報の共有と指導の方向性の確認②手立てを要する生徒との面談	①学年会毎②必要に応じて随時	3	3	
							南北キャンパスの連携を図り、研修旅行、文化祭などの学校行事の充実を図る。	情報の共有と指導の方向性の確認	必要に応じて随時	2	3	
第3学年部	生徒指導 進路指導	生活規律の確保及び 進路保障	規律ある学校生活を通して、生徒各自が進路希望を実現し、卒業する。	年度末の進路決定者の割合	95%	3	個別面談を通して生徒各自の希望進路を把握し、進路指導部及び保護者と連携して適切な指導に努める。	手立てを要する生徒・保護者との面談回数	年間3回以上	3	3	コロナ禍という状況において最後まで最善を尽くした。受験等で進学先が未定の者を除いて96.7%の進路を決めることができた。ただ、積極的にフリーターを選択することをどのように捉え、指導するかが今後の課題として残された。
							進路実現に向けて進学希望者に対する学習環境の整備及び就職希望者に対する指導体制の整備に努める。	自習室の設定日数及び面接等の個別指導の回数	自習室毎日個別指導3回以上	3	3	
							南北キャンパスの連携を密にする。	情報の共有頻度	週1回	3	2	
事務部	施設・設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実に努める。	施設・設備に起因する生徒の事故件数	0件	3	各分掌、教科からの予算要望書提出時などの際に、施設設備の状況確認を行う。	予算要望ヒアリングの実施、予算配分通知の提示	1回	3	3	新図書管理システム導入の要望があり、別途配当を受け導入した。経年劣化が著しい校舎管理備品について更新を行った。
							教職員からの施設設備異常の報告を受けた際に、速やかに方策を検討する。	改善の時期、施工中の進捗状況、改善完了等の逐次報告	報告毎	3	3	
							整備を必要とする事項を所管課に報告し、改善を依頼する。	年間の報告・依頼回数	3回	3	3	
	組織・運営	事務処理	就修学保障、進路保障に係り、生徒・保護者に対し、就学援護に関する案内や事務処理を適切に行う。	就学援護制度について、生徒・保護者への周知徹底	制度通知の都度	3	高等学校等就学支援事業、日本学生支援機構奨学金などの就学援護制度に係る事務について、生徒・保護者向けの案内や手続きの進捗状況を事務部内（北南）及び学年部と共有する。	北・南キャンパス合同の事務部打ち合わせを実施口	1回	2	3	事務室の北南間については、リモートでの打合せをするなど改善を行い、連携を強化させた。
							教職員（特に学年部）との連携を密に行う。	部長会、職員会議で事務部発信の生徒、保護者向け配布物の周知	配布毎、回議毎	3	3	
専門学科	魅力ある学科作り	学習指導	専門学科生としての学習意欲を高める	生徒満足度アンケート「学校全体（南）に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	70%以上	3	授業の開始時と終了時の礼と挨拶、授業の準備を徹底する	授業アンケート10「私は授業の準備をしっかりしている」	3.6	2	2	授業アンケートQ10の平均値は中間評価同様「3.5」と目標に及ばなかったが、生徒満足度アンケート「学校全体（南）に学習する雰囲気がありますか」の肯定率は71%と目標を若干ながら上回った。今後も学校全体の学習する雰囲気を高める手立てを継続していく必要がある。
							学科集会を実施し、各学年の連携を図る	開催回数	学期に1回	3	3	

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価		成果と課題
	「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。			どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間	年度末	
国語科（北）	学習指導	学力の向上	意欲的・主体的に学習する習慣を作り、学力を向上させ、それを実感させる。	授業アンケートQ6、10、11、12の平均値	3.5	2	毎回の授業で、授業内容の理解度の確認を実施し、評価する。	実施率	80%	2	2	生徒が学力の伸長を感じているというアンケートの項目は前回よりも向上したが、生徒が授業へと取り組む姿勢に関わるアンケートの数値は低下していた。今年度は新型コロナウイルスの影響で予定していた教育活動が出来なかったこともあったが、可能な範囲で教育活動を実践できた。来年度以降も、生徒の実態にあわせながら柔軟に対応しながら生徒の学力の伸長に努めたい。
							各単元につき1回以上の提出課題または発表課題を課し、内容について評価する。	実施回数	単元に1回以上	3	2	
							家庭での学習習慣の定着を促し、計画的に小テストを行う。	実施率	80%	3	3	
地歴・公民科（北）	授業	基礎学力の向上	日々の学習習慣の定着化を図り、基礎学力を向上させる。	授業アンケート項目Q5.6.8の平均値	3.4	2	授業開始時に授業に必要な物の確認を行う。	年間実施率	95%	3	3	授業アンケートでは平均値が3.4を下回り、重点目標を十分に達成できたとは言えないが。来年度以降も、生徒の状況に応じた指導方法を各教科で話し合い、実施する努力を続けていく。
							各考査ごとに、授業内容の振り返りを行う。	実施回数	5回	3	3	
							各学期ごとに他教科も含めて授業見学を行い意見交流を行う。	実施回数	年2回	3	2	
数学科（北）	授業	授業規律の向上と 授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒達に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る.	授業アンケートQ8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」Q10「私は授業の準備をしっかりしている」の平均値	3.3	3	服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。	授業の取り組みの点検	週3回	3	3	重点目標の評価指標の3の基準を満たしており、一定の成果があったと考えられる。年間通して、教科内で統一した評価方法を実践し、観点別評価実施に向けての足掛かりを作ることができた。
							意欲を高めるプリントや教材を作成し、演習をさせる。	プリント等利用の回数	週1回	3	3	
							指導方法や評価方法についての教科内研修を実施する。	教科内研修の実施	年3回	2	3	
理科（北）	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心を持たせ、 自然現象に対する関心と理解を高める。	学期毎の不振者数	前年度比10%減	3	生徒の学習内容の定着度をはかるために単元毎以上の頻度で確認テストを行う。	確認テストの実施回数	各科目■元数以上	2	3	実験の実施が難しかったため、代替措置として映像を見せるなど、実際の体験ではなかったが、化学反応や自然現象に触れさせることができた。また、単元テストや確認テストもまだ十分ではないが実施する基盤を築けた。
							実物を手にとっての観察や実験を実施する。	実験・観察の実施回数	各講座■均3回	1	3	
							校外研修等へ参加し、研究と修養に努める。	研修参加回数（1人につき）	平均3回	1	1	
							授業・受け持ち生徒に関する報告・検討会を設ける。	報告・検討会年間実施回数	年間■0回	3	3	
保健体育科（北）	授業	学習意欲の向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力、態度の向上を図る。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.5	3	ベル着の徹底及び集団行動の充実・定着を図り、ルールやマナーを守りながら安全に留意して活動できる規範意識の向上を強化する。	体育の2分前集合完了、保健の1分前の授業準備完了の割合	60%	2	3	体育・保健とも授業開始時までに集合・整列し、意識を持って授業に参加する様子が見られた。また、持久走やトレーニングにおいて、初めに比べて記録が伸び、体力向上の効果が見られた。
							健康の保持増進につながる運動の大切さを理解させるとともに、体つくり運動、持久走・ロードレースを必修とし、基礎体力の向上を目指す。	サーキットトレーニング30秒MAX及び持久走・ロードレースの記録向上の割合	60%	2	3	
							個に応じた指導など授業内容を工夫し、意欲的・積極的に授業へ参加する意識の向上を養う。	保健体育の両科目で成績不振・欠席過多による単位不認定者	40人以下	2	3	
芸術科（北）	授業	授業に対する取組状況	授業規律を確保し、毎時間活動内容に真剣に取り組む姿勢を身につけさせる。	授業アンケートの項目7,8,10,11の値	3.5	2	授業開始ベルの前からベル着を呼びかけるとともに、忘れ物の確認、私語、居眠り、活動状況等について常に指導する。	授業規律確保のための声掛けの割合	90%	3	3	感染症対策として、例年行ってきた松花堂での作品展示会を中止することになったが、各講座内では互いの完成した作品を鑑賞・講評し合う活動を積極的に行うことができた。一方で演奏を発表し合う活動は対策の観点から充実とまではいかなかったので、ICT機器も利用しながらその方法を講じていきたい。
							課題に対して、より良い作品やより良い演奏に向けて努力するよう指導する。	各生徒の活動状況に応じた指導の割合	80%	3	3	
							発表の場を設けることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。	講座クラス内を含む、人前で作品や演奏を発表する場面の設定	各講座■2回以上	2	2	
英語科（北）	学習指導	基礎学力の向上	授業を大切にする意識を育て、家庭学習習慣の確立及び基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ6～Q12の平均値	3.3	2	小テスト等を実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する。	各学期の実施回数	5回以上	3	3	方策は概ね達成できたが結果的に目標値には届かなかった。Q6「学力・技術の伸長を感じる」の数値が低く、授業内演習の時間は確保できたものの、生徒が学力伸長を実感するまでには至らなかった。次年度以降は、単なる作業にならないような効果的な演習・活動の方法について教科内で模索したい。
							課題をこまめに提出させて点検を行い、取り組み状況を確認すると共に、不十分な生徒は指導する。	各学期の実施回数	4回以上	3	3	
							授業内演習や表現活動を実施し、生徒が主体的に取り組む時間を確保する。	各学期の実施回数	2回以上	2	2	
家庭科（北）	学習指導	学習意欲の向上	前向きに授業に取り組ませ、自分の今後の生活を改善する方法を考えさせる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている。」の平均値	3.3	3	興味関心を高めるために視聴覚教材を効果的に使用する。	ICT機器の使用割合	90%	3	3	授業内容と自分の生活との繋がり等に気づかせるために、ICT機器を効果的に活用することができた。今後の生活をより良くする方法を考えるための課題については、設定場面や内容について、改善が必要であるため、工夫していきたい。
							授業内で考える場面を設定する。	考える課題の設定割合	80%	2	2	
							課題を点検し、生徒の理解度を確認する。	課題の点検回数	1年：6回Ⅱ3年：毎回	2	3	
情報科（北）	授業	授業に対する取組状況	前向きに授業に取り組む姿勢を身につけるとともに、情報機器に関する基礎技術の底上げをおこなう。	授業アンケートの「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	3	授業開始時にコンピュータのログイン、教科書等の授業準備が完了しているよう指導をおこなう。	生徒自身の授業準備完了率	90%	3	3	評価指標には届かなかったが、ほとんどの生徒が前向きに授業に参加し、課題の取組状況も良好であった。補習を頼りにせず、授業内で完結できるよう指導していきたい。
							忘れ物の確認をおこなう。	実施率	80%	2	2	
							課題・授業プリントの提出を徹底する。	提出状況	80%	3	3	
商業科（北）	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の修得と資格取得。	授業アンケート「学力や技術が伸びた」の回答の平均値	3.1	3	生徒が、主体的に研究する取組を入れる。	各授業での年間実施回数	2回以上	3	3	3年生の授業において、パンやおにぎりの商品開発、店舗出店企画等の主体的に取り組む内容を実施できた。2年生の授業においては、調べ学習等の主体的に取り組む内容を実施できた。 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、1年を通して具体的方策2の生徒同士で対話する取組を入れることはできなかった。資格取得においては、21人の受験者があり目標を達成した。
							生徒同士で対話する取組を入れる。	各授業での年間実施回数	2回以上	–	–	
							資格取得の有効性を説明し、受験者および合格者を増やす。	ビジネス系検定試験の受験者数	20人以上	–	3	
国語科（南）	学習指導	基礎学力の向上	基本的な学習態度を身につけさせ、積極的に学習する雰囲気作りを工夫する。	授業評価アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりしている。」、Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の平均値	3.3以上	3	定期考査ごとに、ノートを回収し点検する。	ノートの点検回数	定期考査毎	3	3	目標はほぼ達成できている。
							1年生国語総合・2年生現代文において、漢字の小テストを実施する。	小テストの実施回数	1年生15回以上Ⅱ2年生10回以上	3	3	
							授業開始時に、教科書・ノート等の準備ができているか確認する。	声かけの回数	毎回	3	3	
地歴・公民科（南）	授業	基礎学力の向上	授業を意欲的に取り組む姿勢を身につけさせ、基礎学力の向上を図る	授業アンケート項目Q1～Q12の平均値	3.3	3	授業中にノートを取らせる。また、学習項目毎にまとめ・感想を記入させる。定期的に点検をし、加点の対象とする。	実施回数	5回	3	3	授業アンケートでは全体的に数値が上がり平均値が3.3を上回り、重点目標を達成することができた。しかし、学力伸長の実感を感じていない生徒がいるため、実施方法を検討し、改善していきたい。
							授業開始時に、教科書・ノート等の準備ができているか確認する。	年間実施率	95%	3	3	
数学科（南）	授業	基礎学力の向上	授業規律を確立する。 生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値	3.4	3	課題を課し、家庭学習の習慣と基礎学力を身につけさせる。	実施割合	70%	3	3	週末課題など定期的に課題を与え続け、学習習慣や基礎学力の定着につなげられた。感染症対策として授業前の消毒や換気などで始業と同時に立礼ができないことがあった。
							始業チャイムと同時に立礼をする。	実施割合	90%	3	2	
	検定・資格	検定受検・資格取得	数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	数学検定の受験者数	5人	3	α講座に於いて、数学検定への受験を呼びかける。	授業内での呼びかけ	3回	3	3	2月に実施した検定では両キャンパス含め6名受検した。各級に合わせた補習を個別で実施した。検定に向けた指導をとおして数学的な見方・考え方等を身につけさせることができた。
							数学検定に向けた補習を実施する。	補習の実施回数	2回	2	3	
理科（南）	学習指導	基礎学力の向上	学習に取り組む姿勢を高め、学力の定着を図る	学期毎の成績不振者数	各講座1名以内	2	各生徒の学習状況を把握するため定期考査毎にノート点検。	学習したノートの提出	定期考査毎に提出	2	3	概ね基礎学力向上のために努力させることができた。担任や他教科とも連携し指導を行ったが、欠課オーバーの生徒を出してしまった。
							成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。	成績不振者への補充実施	定期考査毎に実施	2	3	
保健体育科（南）	授業	学習意欲の向上	授業開始時の意欲を高める。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりしている。」の平均値	3.8	3	体育/保健の授業開始時における生徒準備状況を評価する。	5分前・3分前・1分前に集合整列、または活動の準備をしている生徒の点検頻度	90%	2	3	学年差はあるものの、早めに集合し授業の準備に意欲的に取り組む生徒が増えた。欠課届・見学届は、期日までに提出されていない状況にある。
							授業を欠席、見学した際に届けを期日内に提出させる。	欠課届け、見学届けを期日までに提出させる達成率	60%	2	2	
芸術科(南)	学習指導	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業評価アンケート7,8,9の平均値	3	3	必要物を確認し、不要物への指導を行う。	確認割合	80%	3	3	重点目標の評価指標である「授業評価アンケート7,8,9の平均値」は3.47であった。不要物や私語・居眠りはほとんどなく、授業規律が確保されているといえる。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のために十分な活動ができなかった科目もあるが、中間評価をした時と比べると多くの生徒が授業に意欲的に取り組むことができた。
							意欲的に取り組む姿勢を高めるよう指導する。	生徒の活動状況に応じた指導の割合	80%	3	3	
							私語・居眠り・活動状況等について常に指導し、授業規律を確保する。	授業規律の確保のための声掛け割合	80%	3	3	
英語科（南）	学習指導	授業	授業を大切にする意識を育て、基礎学力を向上させる。	授業アンケートQ4、10、11の平均値	3.3	3	小テストを実施し、各項目ごとに課題を課す。	各学期の実施回数	6回以上	3	3	年度当初に設定した各目標を達成することができた。来年度も生徒の学習状況などに応じた目標を設定し、達成できるように努めたい。
							AETとのTTを通して、生徒の英語への関心を高める。	各学期の実施回数	2回以上	3	3	
							インタビューテスト等の表現活動を行い、生徒が主体的に授業に参加する機会を設ける。	各学期の実施回数	1回以上	2	2	
家庭科(南)	学習指導	基礎学力の向上	実践的・体験的な授業を通して、家庭科に対する興味関心を引き出すとともに、知識・技能の向上をはかる。	授業評価アンケート5,6の項目の平均値	3.1	3	実践的・体験的な授業の実施	実践的・体験的な授業割合	60%	2	3	方策1について、感染症対策に留意して実習や体験をさせることができた。方策2・3について、より一層充実させることを工夫した。重点目標の評価指標はどちらも<3の基準>を超えることができた。
							ICT機器を活用した授業の実施	実施割合	60%	3	3	
							授業時間内の課題や、振り返り課題の実施	実施割合	90%	3	3	
情報科（南）	授業	基礎学力の向上	授業に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ7（授業の準備）、Q9（意欲的取り組み）の平均値	3.2	3	授業開始時にはコンピュータ起動ができているか点検する。	指導割合	90%	2	3	授業開始までに電源をつけることを生徒が意識できるようになり、授業に対する意識が高まり、授業開始前に課題に取り組むなど積極的に学習する姿勢が見られた。また、授業支援ソフトの機能を使用し、生徒の取組状況を管理することができた。
							課題への取り組み状況や態度を点検する。	指導割合	90%	3	3	
福祉科	学習指導	基礎学力および、専門的な知識や技術の定着	学習環境を整え、福祉に関する専門的な知識・技術の定着を図る。	授業アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりしている」、Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体の平均値	3.3	3	授業に集中できるように、授業規律を確立する。（姿勢を正し、私語を許さない）	授業アンケートQ8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体平均値	3.3	3	3	アンケートの結果が、2項目ともに目標を上回った。またノート提出や課題提出など毎日の授業の大切さが、時間を要したが浸透した。次年度は、ICT機器をさらに活用した授業を行っていきたい。
							ICT機器を活用した授業を行い、授業のUD化の推進をはかる。	すべての科目で年間実施回数	2回以上	3	3	
							定期考査毎にノートを回収し点検する。	ノートの点検回数	定期考査毎	3	3	